

## 1 - 8 日食を見るには？

2009年7月22日には日本列島全体で部分日食を見ることができます。さらに鹿児島県の種子島以南から、沖縄の奄美大島以北にかけての帯状の地域や硫黄島では、日本の陸地では46年ぶりの皆既日食となります。日本に月の影が落ちる直前には中国の一部で皆既日食となります。ここでは主催企画と関係する日食関連の情報ををご紹介します。



皆既直後のダイヤモンドリング

3団体は情報交換と映像コンテンツの共有をめざして「2009年皆既日食中継協議会」を発足させました。

世界天文年2009ホームページの中でも特設ページを用意し、複数の中継サイトへとたどれるようリンクポイントを設置します。

### 7.22 皆既日食中継プロジェクト

皆既日食の状況はいくつかの団体が中継する予定となっています。それぞれの団体の観測場所や中継方法、見せ方は異なりますが、国立天文台、ライブ！ユニバース、慶應義塾大+和歌山大の



### 日食グラスで月にかくれる太陽を見よう

部分日食中の太陽を見るには、有害な太陽光線から適切な方法で眼を保護する必要があります。不適切な方法で観察すると網膜を傷めたり、最悪の場合失明に至る危険性があります。日本委員会では安全性に関する検討を重ね、国内光学機器メーカーである株式会社ビクセンの協力を得て推奨できる日食グラスの制作とサンプル配布を主催企画として行いました。



部分日食

サンプル配布にあたっては、国立天文台ならびに科学技術振興機構（JST）の協力を得て、2008年末にJST機関誌「サイエンスウィンドウ」に同封することにより、全国の小中高등학교や主な科学館などに各1個の割合で日食グラスをお届けしました。もちろん各学校あたり1個では観察される皆さん全員で共有するというわけにはいかないと思いますが、サンプル配布は反響が大きく、各地の学校で日食観察の機会を設定するきっかけとなっているという声が多く寄せられています。



日食グラス使用イメージ

日食を見るイベントを企画する際には、主催者として太陽観察に関する正しい知識にもとづいて安全性に最大限配慮した企画をされることを願っております。

ビクセン製の世界天文年2009日本委員会推奨日食グラスは、医学的見地からも安全性が確認されているものです。商品に関する情報はPART 3をご覧ください。

### 日食関連の公認イベント

日本委員会では、7月22日の日食を観察する公認イベントの主催者に対し、推奨する日食グラスのサンプルをお届けできるよう準備中です。公認イベントについては2-2、2-3をご覧ください。また、日食を人に見せる際のノウハウに関しては3-8で取り上げています。